

2011年国際科学コンテストについて

1. 国際科学コンテストとは

- 国際科学コンテストは、科学的才能に恵まれた子ども達を見出しその才能を伸ばす機会を与えるとともに、国際交流を深める目的で、毎年世界各地で開催。
- 日本においても、2004年度（平成16年度）より、国内大会や強化訓練の実施、国際大会への選手派遣について、国から実施団体への支援を開始。
- 国内予選の参加者※は、2004年度（平成16年度）時点で約2,600人であったが、年々増加し、2010年度（平成22年度）は9,899人。
（※ 数学・物理・化学・生物学・情報・地理・地学の各オリンピックの国内予選参加者の合計数）

2. 2011年国際大会の結果

- 2011年は、金メダル11個、銀メダル13個、銅メダル3個という成績※を収めた。また、全ての日本代表選手がメダルを獲得した。
（※ 地理オリンピックについては地域大会のみ開催されたため、含めていない。）
（※ ISEFの結果については、3等1名、4等1チームであった。）
- 生物学オリンピックにおいては、金メダル3個、銀メダル1個、国別順位3位という、過去最高の成績を収めた。

3. 日本科学オリンピック推進委員会

- 本年3月に開催予定であった理事会について、東日本大震災の影響で延期されていたが、10月4日に開催され、科学オリンピックの今後の在り方等について議論が行われた。

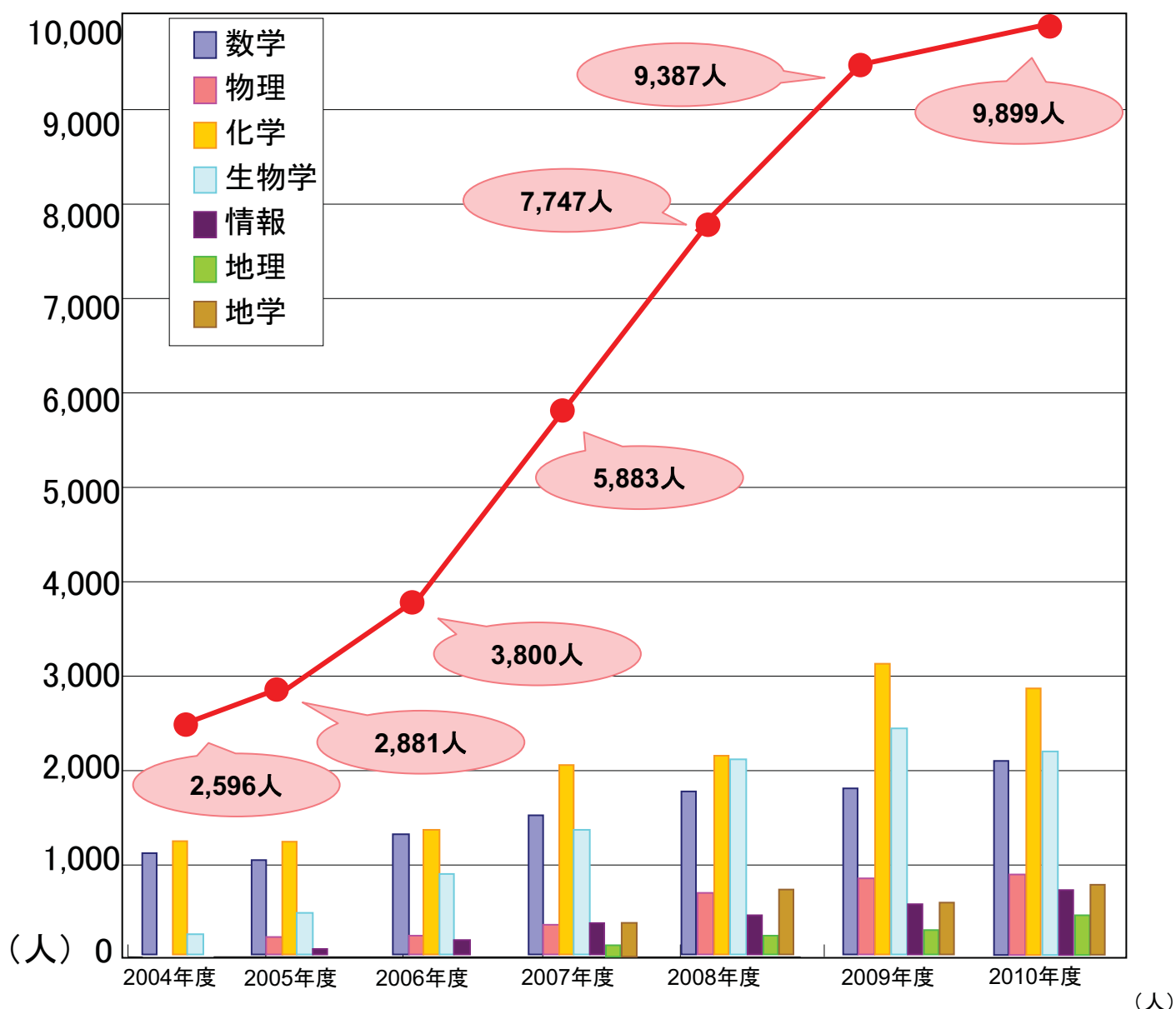


鈴木前副大臣から表彰状を受け取る、東日本大震災の被災地である宮城県多賀城市の私立秀光中等教育学校の佐藤遼太郎さん（物理・金メダル）



過去最高の成績を収めた、国際生物学オリンピック代表選手と鈴木前副大臣

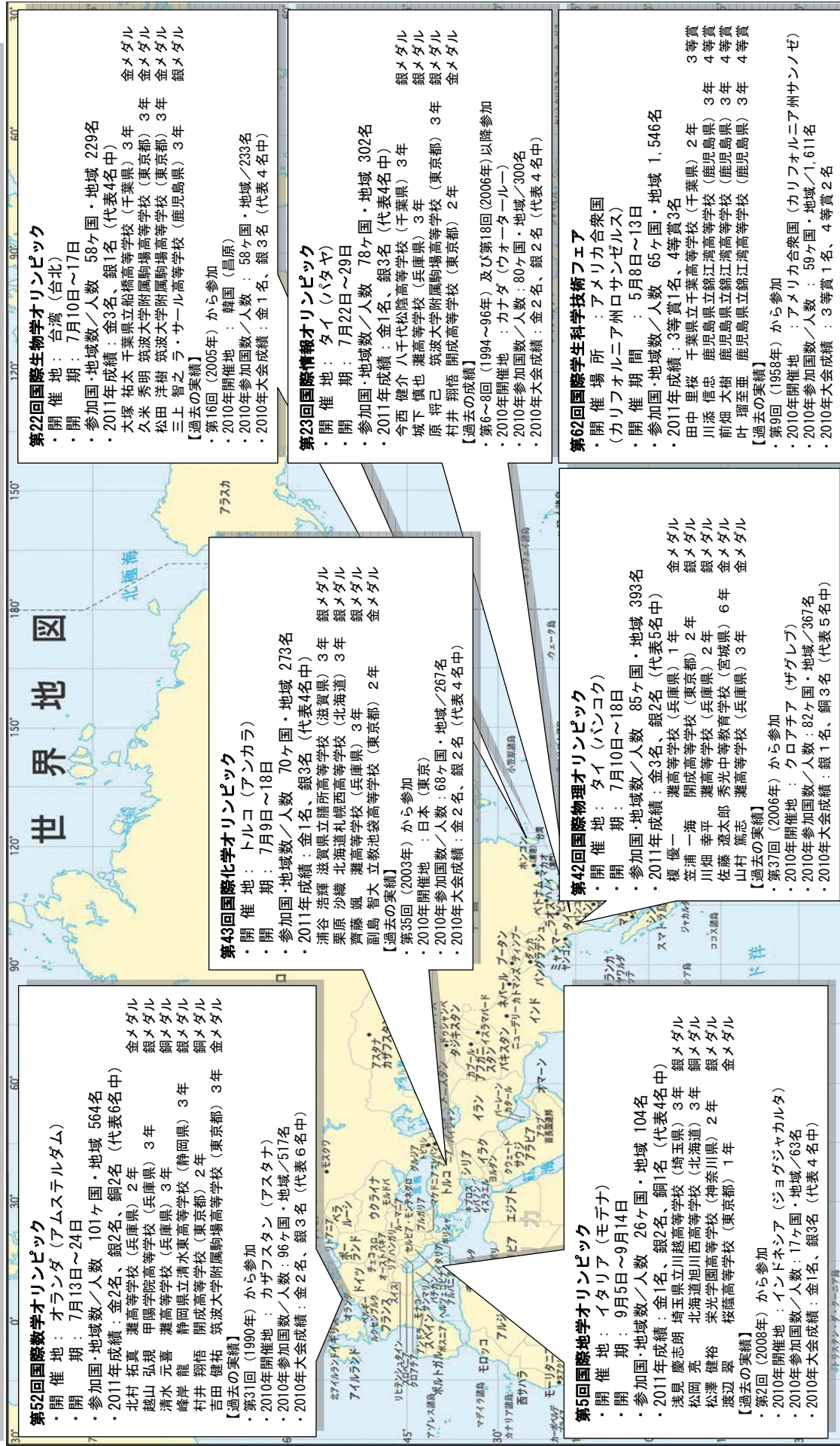
国際科学オリンピック 国内大会一次選考参加者数の推移



	数学	物理	化学	生物学	情報	地理	地学
2011年度	1月開催	983	3,049	2,453	12月開催	1月開催	12月開催
2010年度	2,058	842	2,879	2,181	714	448	777
2009年度	1,763	809	3,078	2,395	531	260	551
2008年度	1,726	653	2,105	2,069	415	192	587
2007年度	1,476	312	2,009	1,322	334	111	319
2006年度	1,271	198	1,318	851	150	12	未実施
2005年度	998	188	1,193	443	59	未実施	未実施
2004年度	1,071	未実施	1,201	324	未実施	未実施	未実施

(参考)○平成21年度高等学校生徒数(全日制)約335万人／○国際大会の前年に国内大会が開催される。

2011年国際科学コンテストの開催地等について



2011年5月	6月	7月	8月	9月
国際学生科学技術フェア 5/8～5/13	化学 7/9～7/18	数学 7/13～7/24 物理 7/10～7/18 生物学 7/10～7/17	情報 7/22～7/29	地学 9/5～9/14

これまでの国際科学オリンピックにおける 日本代表の結果について

(過去5年間)

			数学	物理	化学	生物学	情報	地理	地学	計
2011年	メダル	金	2個	3個	1個	3個	1個	開催無し	1個	11個
		銀	2個	2個	3個	1個	3個		2個	13個
		銅	2個	0個	0個	0個	0個		1個	3個
		計	6個	5個	4個	4個	4個		4個	27個
	順位		12位	5位	15位	★3位	8位		4位	
2010年	メダル	金	2個	0個	2個	1個	2個	0個	1個	8個
		銀	3個	1個	2個	3個	2個	0個	3個	14個
		銅	0個	3個	0個	0個	0個	1個	0個	4個
		計	5個	4個	4個	4個	4個	1個	4個	26個
	順位		7位	31位	★4位	10位	★2位	22位	3位	
2009年	メダル	金	5個	2個	2個	1個	2個	開催無し	0個	12個
		銀	0個	1個	1個	3個	1個		4個	10個
		銅	1個	2個	1個	0個	1個		0個	5個
		計	6個	5個	4個	4個	4個		4個	27個
	順位		★2位	11位	6位	6位	6位		3位	
2008年	メダル	金	2個	1個	0個	0個	1個	1個	0個	5個
		銀	3個	1個	0個	3個	1個	0個	3個	11個
		銅	1個	1個	4個	1個	2個	0個	1個	10個
		計	6個	3個	4個	4個	4個	1個	4個	26個
	順位		11位	17位	33位	14位	11位	11位	3位	
2007年	メダル	金	2個	2個	0個	0個	1個	開催無し	不参加	5個
		銀	4個	2個	0個	1個	1個			8個
		銅	0個	1個	4個	3個	1個			9個
		計	6個	5個	4個	4個	3個			22個
	順位		6位	★4位	31位	17位	7位			
2006年	メダル	金	2個	0個	1個	0個	2個	不参加	開催無し	5個
		銀	3個	1個	3個	0個	0個			7個
		銅	1個	3個	0個	3個	1個			8個
		計	6個	4個	4個	3個	3個			20個
	順位		7位	20位	7位	27位	6位			

※国別順位は国際大会主催者が発表した個人成績データを元に算出したものであり、公式データではない。

(情報・地学・物理(2011年に限る。))はメダル数で順位付け。その他は、個人得点の合計で順位付け。)

☆過去最高の順位

国際科学技術コンテスト支援事業

平成23年度予算額 : 289百万円
(平成22年度予算額 : 395百万円)

運営費交付金中の推計額

背景

・新成長戦略の実現(工程表V「1. 国際競争力ある科学・技術・イノベーションシステムの構築」) ○国際科学オリンピック参加の支援(2011年に実施すべき事項)

・「科学技術に関する基本政策について」(答申)(平成22年12月24日総合科学技術会議)

国は、国際科学技術コンテストに参加する児童生徒を増やす取組や、このような児童生徒の才能を伸ばす取組を進める

目的

科学技術コンテストへの参加の支援等を行うことにより、高校生等の理数科目・科学技術に対する興味・関心や目標意識、意欲・能力を高め、科学技術をリードする人材を育成する。

概要

国際科学技術コンテストの国内大会開催や国際大会への日本代表選手の派遣等に対する支援を行う。
[対象:科学技術コンテスト運営団体(公募)(数学、物理、化学、生物学、情報、地理、地学オリンピック等)]

【現状】

国際大会の日本開催(H21,H22)を経て、社会的な認知度は高まりつつあるが、国内大会への参加者数は十分とはいえない。

各分野の人材育成に使命感を持つ学会等が運営団体を構成するが、運営団体等の多くは資金的、人的基盤が脆弱

＜支援内容＞

- ・国内選抜活動に係る経費
- ・国内での指導訓練に係る経費
- ・国際大会への選手派遣経費等

・世界で活躍できる卓越した人材の輩出

・科学技術イノベーションを支える理数系人材の輩出

科学技術関係人材の裾野拡大、トップ層の充実

国民の科学技術への関心増大・接近(親近感の醸成)

参加者層の掘り起こし

コンテスト認知度、参加気運の大幅向上

＜支援内容の拡充＞

- ・参加者増、指導訓練の充実
→会場数の拡大、
二次選考合宿・強化訓練の充実、
OB・OGの参画の促進

【継続】

認知度向上、メダリスト等の
ネットワーキング形成のための
シンポジウム開催



日本科学オリンピック推進委員会理事会メンバー

(平成23年10月4日理事会決定)

会長	江崎 玲於奈	横浜薬科大学学長、(財)茨城県科学技術振興財団理事長
	相澤 益 男	総合科学技術会議議員
	青山 彰	全国高等学校長協会会長、東京都立竹台高等学校長
	秋山 耿太郎	(社)日本新聞協会会長、朝日新聞社代表取締役社長
	浅島 誠	国際生物学オリンピック日本委員会委員長、東京大学名誉教授
	有馬 朗 人	(公財)日本科学技術振興財団理事長、科学技術館館長、武蔵学園長、 静岡文化芸術大学理事長
	有山 正 孝	物理オリンピック日本委員会理事長、電気通信大学名誉教授
	筧 捷 彦	情報オリンピック日本委員会理事長、早稲田大学教授
	清家 篤	(社)日本私立大学連盟会長、慶應義塾長
	小柴 昌 俊	(公財)平成基礎科学財団理事長、東京大学特別栄誉教授
	小林 一 章	(財)数学オリンピック財団理事長、東京女子大学名誉教授
	庄山 悦 彦	(株)日立製作所相談役
	遠山 敦 子	(公財)パナソニック教育財団理事長
	豊田 章一郎	トヨタ自動車(株)名誉会長
	中村 道 治	(独)科学技術振興機構理事長
	中村 洋 介	化学グランプリ・オリンピック委員会委員長、群馬大学教授
	野依 良 治	(独)理化学研究所理事長、名古屋大学特別教授、 元化学オリンピック日本委員会委員長
	濱田 純 一	(社)国立大学協会会長、東京大学総長
	濱野 洋 三	地学オリンピック日本委員会理事長、海洋研究開発機構
	氷見山 幸 夫	国際地理オリンピック日本委員会委員長、北海道教育大学教育学部教授
	広瀬 道 貞	(社)日本民間放送連盟会長、(株)テレビ朝日顧問
	松本 正 之	日本放送協会会長
	前田 勝之助	東レ(株)名誉会長
	渡辺 正	東京大学教授、元化学オリンピック日本委員会実行委員会委員長
事務局長	坪井 健 司	(公財)日本科学技術振興財団副理事長